

D&#237;ez-Bedmar & P&#233;rez-Paredes (2020) - sugiura (2023 年 10 月 28 日 21 時 34 分 16 秒)

D&#237;ez-Bedmar, M. B., & P&#233;rez-Paredes, P. (2020). Noun phrase complexity in young Spanish EFL learners' writing: Complementing syntactic complexity indices with corpus-driven analyses. *International Journal of Corpus Linguistics*, 25(1), 4&#8211;35. <https://doi.org/10.1075/ijcl.17058.die>

-----  
スペインの 7, 8, 11, 12 年生 (中 1、2、高 2、3) の EFL 学習者のエッセイ (好きな映画について、その中で起きることを説明する) で使用される名詞句について、TAASSC での名詞句指標と、最頻 5 位までの名詞を検索してその名詞句を目視で分析する。

データ量は、学年ごとに

ファイル数 : 26, 44, 59, 44

単語数 : 1586, 3874, 4599, 6975

平均単語数 (SD) : 61(32), 89(61), 78(44), 159(62)

名詞句数 : 100, 193, 238, 301

と、バラバラ。

目視で名詞句を 4 つに分類

- 1) 冠詞のみ
- 2) 前置修飾あり
- 3) 後置修飾あり
- 4) 前置・後置両方あり

この 4 種類をさらに、5, 6, 10, 8 の計 29 種類に分類

それで、その 29 種類で分類して平均出現数を出すと、そもそもファイル数が少ないので、まったくくないものや、平均 0.02 回とか、最大で冠詞 + 名詞が高校 3 年で 3.37 回、それで SD3.238。

こういう数字で、学年間と 29 の種類間の差を比較している。

名詞の形容詞的用法について中 2 と高 3 の間に差があった、とのことらしい。

その他もやたら、どの項目ではどこどこが云々と書いてあるが、結局のところ普遍的な何かが見つかったという話ではなく、理解しようとすればするほどフラストレーションがたまる。

よくこれだけこのネタで書けるものだと感心する。

結局、Abstract には、名詞の形容詞的用法と冠詞 + 前置修飾 + 名詞というのが young Spanish EFL learner の言語発達を示す、とかいてあるのだが、、

ところが、図 1 では、前置修飾を一番使うのは中一で、少ないのが高 3、後置修飾は、高 3 が一番使っていて、中一はゼロ。これって、どういうこと？

表 10 の前置修飾では、各学年の平均使用回数は、1.31, 1.23, 1.15, 1.41 となっている。これを見て、前置修飾を見たら言語発達が見えるといえるか？

まったく理解に苦しむ。

